

平成28年度 学校評価書

総社市立総社小学校
校長 三上啓子 印

1 自己評価

I 評価結果 (別紙参照)

II 分析・改善方策

1 心の教育の充実

- ① 道徳教育，人権教育，だれもが行きたくなる学校づくりの取組を充実することにより，児童が気持ちのよいあいさつや思いやりの心を生活の中で実践することができるようにする。
 - ・ 毎月，品格教育のテーマに沿って品格教育と道徳教育を関連付けた道徳の授業のポイントや内容項目の扱い，日常生活へのつなぎ方を道徳教育推進教諭が提案し，児童の実態に合わせた道徳の授業を各クラスで行ったり，道徳の授業公開を参観日等に行ったりすることにより道徳教育の充実に努めることができた。
 - ・ 6月の「いじめについて考える週間」や11月の「校内人権週間」等を中心に「いじめ0 みんな笑顔の 総小っ子」を合い言葉に人権学習等に取り組むことができた。
 - ・ あいさつを毎月一週目の週目標にし学級指導を行う，本校のあいさつ目標「大きな声で，すすんで，顔を見て」の設定と旗の作成等人間関係づくり部を中心に組織的に取り組むことができた。また，計画委員会や生活委員会，6年生ボランティアによるあいさつ運動の取組など児童による主体的な活動により，進んであいさつのできる児童が増えてきた。加えて，地域の方にも協力をお願いした「あいさつボランティア」の取組により地域でのあいさつもできるようになってきている。
 - ・ SELとピア・サポートをリンクさせ，SELで身に付けたスキルをピア・サポート活動で実践できるようにし，各学年，年間17時間実施した。異学年（兄弟学年や縦割り班），同学年，異校種間（幼稚園，保育園，中学校，総社高校）での交流の場を意図的・計画的に設けることにより，思いやりの心を育むことができた。

2 健康・体力づくり

- ② 健康教育・特別活動を充実することにより，児童が基本的な生活習慣を身に付けるとともに，目標をもって最後まで活動に取り組むことができるようにする。
 - ・ 基本的な生活習慣を身に付けることができるよう，睡眠とメディアコントロールの2項目を取り上げ，総社東中学校のテスト週間，夏季・冬季休業と年7回「メディアチェック週間」を設けた。昨年課題を踏まえ，今年度はメディアのルールづくりに重点を置いて取組を行った。PTA教育講演会に4年生以上の児童も参加し，メディアとの上手な関わり方についての講演を聞いて，保護者，児童と一緒に考える機会を持った。課題に重点を置いた内容の学校保健委員会だより，保健だより等も発行して保護者の啓発と連携を図った。これに加えて児童保健委員会によるメディアのルール作りの呼びかけ，紙芝居等も行った結果，昨年よりルール作りが進み児童や保護者の意識も高まってきた。
 - ・ 運動会や学習発表会，児童会活動等全ての教育活動において，児童の実態に応じた目標を持つことができるようにし，活動後は振り返りを行うようにした。

児童にクラスや自分の目標に挑戦させ、達成感を得させることができた。

3 確かな学力の向上

- ③ 協同学習、ICT機器の効果的な活用により、児童が主体的に学習に取り組むとともに、基礎学力も身に付けることができるようにする。
- ICT機器の活用や協同学習を効果的に取り入れた授業改善により、友達と積極的に関わりながら進んで学習に取り組むことができるようになってきている
 - 全ての教師が研究授業を行い、加えて外部講師の指導も受け、思考力表現力を高める授業づくり、分かる授業づくりに努めた。また、学びの要である授業規律、ノート指導についても全職員で共通理解して取り組むことができた。
 - 朝学習の時間に、基礎学力を、総小チャレンジタイムに表現力や思考力を育成するような取組を行った。総小チャレンジタイムでは、児童の実態に応じた指導ができるように4年生以上において複数で指導に当たるようにした。11月、に行った岡山県の確かめテストの結果からは児童に力がついてきていることが確認できたが、単元テストの達成基準においては、成果を上げることができなかった。児童の実態把握やテストの分析により今後の取組を検討していく。

4 開かれた学校づくり

- ④ 各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開により、積極的に情報を発信する。
- 校長室便り、学校便り、学年便り、学級便り、図書便り、保健便り、学校保健委員会便り等をタイムリーに発行するとともに、ホームページの更新に努め、学校からの積極的な情報発信に努めてきた。また、学校行事や学習活動を積極的に公開し、保護者や地域の方の理解と協力を得るように努めることができた。
- ⑤ 家庭や地域との連携を深めることにより、児童の安全・安心を確保するとともに、家庭学習や読書の習慣を定着させる。
- 集団登下校を徹底させ、教員による登下校指導をたすきボランティアの方と協力しながら毎日行い、児童の安全・安心を確保することができた。
 - 学級懇談時、PTA新聞、学年だより等を活用し、家庭学習の意義や家庭学習の取り組み方について保護者に説明し、保護者との連携が図れるように努めた。また、家庭学習強化週間を設定し、保護者や児童の意識の高揚を図った。その結果、ほとんどの児童が家庭学習に取り組んでいるとともに、家庭学習の時間の目安「学年×10+10」分が達成できてきている児童も増えている。
 - 読書を習慣づけるため、昨年度に引き続き「読書の大切さ」についての学級指導や「アイラブブックウィーク」等の取組を行った。加えて、週末の宿題に読書を加えるなどし読書習慣の定着を図った。保護者との連携を図るため新たに家読通信の発行も行った。今後は、メディアコントロールとより関連づけた啓発を行っていくことで、読書習慣の定着を図っていきたい。

2 学校関係者評価者名

井上 憲司 (有識者)	高北 博文 (PTA会長)
田中 真秀 (有識者)	加古川 聡 (PTA副会長)
加藤 隆三 (主任児童委員)	三宅 啓介 (PTA副会長)
宮本 由里子 (地域住民)	

3 学校関係者評価

1. 心の教育の充実
- 全学年の児童が元気に挨拶をしてくれるため、こちらも気持ちよくなる。習慣付いた挨拶と感じられる。
 - いじめについて些細なことでも記録していることは素晴らしい。いじめ0と

ということよりも子ども同士のトラブルを学校が把握していることが大切である。いじめと認定されなくとも、悩んだことや友人関係のトラブルを学校内外問わず、児童が教員に伝えることのできる関係を作ることにより、児童が何でも言いやすくなる。いじめに発展する前の問題行動やトラブルを認知することで、保護者との連携や日常生活と道徳教育のつながりを付けることも有効であろう。

- ・ ピアサポートが根付いたことにより、児童の心の安定を生み、友達の考えや存在を尊重しながら共に学び学校生活を送る風土が形成されてきたように感じる。
2. 健康・体力づくり
 - ・ 睡眠については、早寝をするから早起きになるよりも、早く起きないから早く寝ないのではないか。早く起きる習慣を意識して欲しい。
 - ・ 録画したものを見る時間も含め、メディアに接する時間を家庭で考えていてほしい。
 3. 確かな学力の向上
 - ・ 授業時間はもちろんのこと、朝の学習時間や、水曜日の放課後などを活用した個別指導が充実していることによって、全体として学習習慣が定着しているように見える。
 - ・ 児童の熱心に学ぶ姿勢に感心した。先生方の工夫や努力の賜物でもある。総小チャレンジタイムの成果などもある。反面、学力の2極化の傾向が感じられる。家庭環境等により学力に関しての児童の意識差も生じているようではあるが、自己評価の改善策にも記載されているように、活用力の向上を図る総小チャレンジタイムでの習熟度別指導などを実施することにより、さらに個への対応を充実させてほしい。
 - ・ 全ての先生が、個人のスキルアップはもとより、チームプレーによる全体のレベルアップに向けた努力が感じられた。このような熱意については、様々な場面で感じる事ができた。
 4. 開かれた学校づくり
 - ・ 教職員の熱心で献身的な取り組みに敬意を表するものの、さらに教職員の心身の健康の保持・増進に努めてほしい。そのためにも、教職員がより安心できる職場環境を作り、学校だけで問題・課題に対処するのではなく、内容によっては、保護者・地域等から支援をもらうなど、さらに「開かれた学校」になってほしい。
 - ・ 本年中の各種ボランティア募集活動、実際の活動への案内や参加者募集などは、これまでになく活発に行われたように感じる。その動きに応える形で、多くの保護者や地域の方が挨拶や家庭科授業の補助などに参加していた。
 - ・ 学校ボランティアの方々に積極的に学校に関わってもらうことはとても良いことである。
 5. 設置者等による学校への支援
 - ・ 児童が毎日楽しく安心して学校に行けるのは先生方のおかげだと感謝している。先生方の健康の維持、児童に向き合う時間の確保、さらには、全ての児童が基礎学力を身に付けることのできる環境づくりの一環として、教諭、支援員等の人的配置等の支援をお願いしたい。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

本年度の成果と課題、学校関係者評価等をふまえて、学校経営目標を本年度より高いレベルで実現することを目指して、来年度も同様の学校経営目標を設定する。

- 1 心の教育の充実
- 2 健康・体力づくり
- 3 確かな学力の向上
- 4 開かれた学校づくり

